

学びをしポート!

myらいふ

158号



まちのヒーロー

今号の記事

1985. 4. 25~

- ①版画のまち鹿沼で美術に親しもう (生涯学習課主催講座)  
6月21日(日) 13:30~15:00 文化活動交流館
- ②親子でフラダンスを踊ろう (生涯学習課主催講座)  
6月14日(日) 10:00~12:00 市民情報センター

myらいふは、市民編集員が取材・編集する生涯学習情報です。



## 美術館へ行こう

コロナ禍で自粛のため、たくさんの講座が中止になりましたが、おうち時間をどのようにお過ごしでしたか?

6月21日(日)文化活動交流館で「版画のまち鹿沼で美術に親しもう!」第1回「奇想の画家」伊藤若冲じゃくちゆうの魅力に迫る!と題し、川上澄生美術館学芸員・相澤美貴先生のお話をお聞きしました。参加者は男性4名女性10名の全14名、ほとんどの方が伊藤若冲をご存じでした。



伊藤若冲(1716~1800)とは、江戸時代に活躍した絵師(画家)で、代表作に「動植綵絵さいえ」や「花鳥版画」があります。若冲=にわたりのイメージが強く、にわとり好きのため鶏の絵を得意としました。近年、日本美術の画家の中でも一番熱い人と評価され、展覧会でも人気を博す画家の一人であり、85年の長寿を全うした人です。2016年東京都美術館での「生誕300年記念若冲」展では、1ヶ月の来場者が44万6千人を記録する大盛況となりました。

今回の講座のキーワードは「絵を見る!!」

2枚の良く似た絵を比べ、若冲が描いた模写の「虎図」「釈迦三尊像」を当てるクイズ形式で進みました。若冲の絵は、くっきりとした線で色の境界を強調し、さらに形を単純化しているという特徴があります。

若冲の人柄や豊かな想像力、奇想天外な発想に満ちた江戸絵画の魅力を交え、絵画をより深く見るきっかけを作ってもらえるような講座でした。



\*絵を漠然となんとなく見る。\*注目して見る。このふたつを身につけると鑑賞の幅が広がる!と、相澤先生はユーモアを交えて説明して下さり、とても楽しい時間となりました。

川上澄生美術館館長の青木理ただすさんも同席される中、受講生は「今度美術館へ行く時は、絵の特徴を良く捉えて観覧したい」「先生の楽しいお話に引き込まれあつという間でした」と感想を述べてくれました。

皆さんもこれを機に美術館へ足を運ばれてはいかがでしょうか。

# 親子で楽しくウキウキフラダンス



「ア・ロ・ハ」とハンドサインを交えながら元気な挨拶で始まった「親子でフラダンスを踊ろう」の第1回目。参加者は2~4年生の男女8名とそのお母さん方です。指導は、楽しく、リラックスしてがモットーの現代フラ(アウアナ)講師の手塚イチ先生。先生は、60歳になってからフラを勉強し、ハワイアンネームも取得されたそうです。

まず、先生が用意して下さった色とりどりのタフスカートや髪飾り、レイを身にまとい雰囲気づくりもばっちりです。タフスカートは、頭からかぶりウエストではなく腰に着るそうで、髪飾りの位置も未婚者は右、既婚者は左と決まっています。



カホロとカオという基本のステップを先生や鏡を見ながら練習しました。初めは、ぎこちなさもありましたが20分もすると先生の「カホロ・カホロ」「カオ・カオ」というかけ声に合わせてられるようになってきました。途中「足が痛い。疲れた。」という声もありましたが、休憩をはさみ最後には、「フキラウソング」という、地引き網を引いて魚を捕ってパーティーをして食べようという意味の踊りも出来るようになっていました。



「私がやってみたくて子どもを誘いました」というお母さんや「楽しいかな?」と思って参加しました」という男子。元気でわかりやすい先生の指導で、みんなにこやかな表情になっていました。

これからも親子で色々な曲が踊れるようになると楽しいですね。次回は、「四季の歌」を練習する予定だそうです。

## 編集後記

新型コロナウイルスの影響で各種のイベントや講座が延期または中止となってしまう「myらいふ」も今回は縮小版で発行することになりました。

近年のウイルス性の感染症は、自然破壊によって野生動物との接触を加速したことが原因であるとも言われています。温暖化によって凍土の中に含まれる未知の細菌やウイルスが地上に拡散されてしまうことも懸念されています。地球の未来はどうなるのでしょうかね。

次号では、新たな生活様式の中で学ぶ意欲を持ち続ける皆様の生き生きとした姿をお伝えしたいと思っています。

介川恭子